

平成 20 年 2 月 20 日

各 位

東京都文京区白山五丁目 1 番 3 号

株式会社ビーマップ

代表取締役社長 杉野 文則

(大証ヘラクレス：4316)

問合せ先：経営企画部長 大谷 英也

(電話 03-5842-5033)

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

このたび、当社において特別損失が発生いたしますので、下記のとおりお知らせいたしますとともに、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 5 月 14 日に公表いたしました平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1 特別損失の発生及びその内容

当社では財務諸表の健全化をはかることにより、財務基盤及び収益力の強化を目指しております。また、財務報告に係る内部統制システムの整備を進めることによりリスク軽減に取り組んでおります。これらの一環として、固定資産の減損に係る会計基準に基づき、固定資産の再評価を行った結果、また、当社の収益力を強化するためのリストラを実施するため、合わせて、連結で 220 百万円・個別で 130 百万円を特別損失として計上することといたしました。

その主な内容は以下のとおりであります。

① 関係会社株式

株式会社フレームワークスタジオについては、2 期連続営業赤字となる見込であることと子会社化時等における事業計画との乖離が著しいため、また、フォーマイスターズ・システムコンサルティング株式会社、株式会社インフォエックスについては、子会社化時における事業計画から遅延が生じているため、保守的な観点からのれんの減損処理を行なうことといたしました。これにより、平成 20 年 3 月期連結については、のれんの減損損失として合計 168 百万円を、同個別については、関係会社株式評価損として合計 78 百万円を特別損失として計上する予定です。

② その他資産

当社が、顧客への販売用に開発したソフトウェア資産・仕掛品並びに購入した在庫等について、発表日現在における当初計画との差異を審査した結果、回収になお時間を要すると考えられるものについて、保守的な観点から資産の再評価を行ないました。これにより、平成 20 年 3 月期で固定資産の減損及び商品低価評価損として合計 37 百万円を特別損失として計上する予定です。なお、事業分野別の主な内訳は、モバイル事業分野で 30 百万円、ソリューション事業分野で 7 百万円となる予定です。

③ リストラ費用

今期中の事業撤退・縮小等に伴うリストラ費用として最大 15 百万円を見込んでおります。

2 連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,291	14	10	5
今回修正予想 (B)	1,055	△215	△216	△435
増減額 (B - A)	△236	△229	△226	△440
増減率 (%)	△18.3	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成19年3月期)	960	△95	△98	△360

3 個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	904	12	15	10
今回修正予想 (B)	784	△91	△91	△221
増減額 (B - A)	△120	△103	△106	△231
増減率 (%)	△13.3	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成19年3月期)	805	3	9	△243

4 修正理由

① 個別

既存事業である交通、無線 LAN、モニタリングについては当初見込みどおり進展し、今期よりメタデータについても営業黒字化する予定であります。位置情報、モバイル WEB については当初見込みを下回っております。また、新規事業であるタレント関連の物販・データ提供事業につきましては、目標の売上高に及ばず立上費用が収益を圧迫している状況にあります。

更に、当社の事業モデル上、3月に売上を見込めるプロジェクトが集中しておりますが、発表日現在において、当期末までの受注・売上が不確定なプロジェクトにつきましては、保守的な観点に基づき、予想数値から除外させていただきました。

② 連結

株式会社フレームワークスタジオについては、営業損失を計上する見込みであります。また、フォーマイスターズ・システムコンサルティング株式会社、株式会社インフォエックスについては、営業黒字を確保すべく活動しておりますが、のれん代償却を吸収できる超過収益は確保できない見込みであります。

5 今後の対応

上記のとおり、連結で3期連続営業損失・税引後純損失を計上する見込みであります。当社といたしましては、責任を重く受け止め、代表取締役及び取締役、部長職以上の幹部社員の報酬カットを実施いたします。

今般、関係会社株式につきましては、特別損失を計上いたしましたが、来期以降の収益性が高い関係会社につきましても、子会社化時における事業計画との差異を勘案して、保守的な観点から減損処理を実施しており、来期以降、のれん代償却の負担が軽減されることもあり、連結業績に寄与するものと考えております。

また、その他の資産につきましても、今期の業績見込を勘案して、保守的な観点から減損処理を実施しており、今期の残り期間並びに来期以降、販売実績を当初計画に近付けることで、一円でも多く回収を図っていく所存であります。

更に、収益性の極端に低い事業を中心に、縮小もしくは事業譲渡も含めたリストラを検討しており、業績に大きく影響を与えるものにつきましては、決定次第、発表させていただきます。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいております。実際の業績は上記予想数値とは異なる可能性があります。

以 上